



校報

# けむやま

矢巾町立煙山小学校  
H28.7.19(火) 第6号  
紫波郡矢巾町北矢幅 1-2  
Tel.697-3163

## もっと早く聞いて いればよかった!

友だちとトラブルを起こす。  
すぐキれる。暴力をふるう。攻撃的。  
叱られると暴言を吐く。  
感情を表に出さない。  
家ではおとなしいが学校で暴れる。  
思いを言葉にできない。ネットトラブル。  
いじめ。ゲーム・カードにのめり込む…。

7月8日(金)、大河原美以さんの講演会が公民館で行われました。PTA会員のみなならず、保育園・幼稚園、児童民生委員、公民館長さんなど約180名の参加。いじめや子育ての仕方について「目からうろこ」のお話にある保護者は、「もっと早くこのことを聞いていれば良かった」と感想を述べられていました。

以下が、講演内容の抜粋です。  
◆今、子どもたちはネガティブな気持ちをコントロールできず、心は危機的状況にあるということ。◆自分の本当の感情と行動とのネットワークが切れた状態にある子どもが増えているとのこと。

👉これらは脳の発達に問題があること。

子供にとって本当は、「転んで痛い・泣きたい」のに、大人から「痛くない」(強く逞しい、いい子に育てたい…大人の思い・願い等)という、言葉のすりこみが行われると、子供の気持ちと大人の言葉の矛盾が生じ、子供の感情制御(コントロール)の獲得が阻害される。



矛盾が積み重なっていくと なにかのきっかけで

これを**加速**させるのが【**ネット・ゲーム**】

あんなにいい子だったのに…。突然反抗。キれる。不登校・引きこもり(ニート)。いじめ。ネット・ゲーム依存。

高め合おう  
礼節を重んじ美しく

### 感情制御

怒りや不安、悲しみ、欲望は誰にでもある。

それをコントロールするには、怒りや不安、悲しみといった感情を安心して出すことができる、受け止めて、感情を言葉にしてくれる体験環境が必要。それにより感情をコントロールできる**脳のネットワーク**がしっかりできて、感情を制御(感情を安心で包みこむ)することができるようになる。この体験を積み重ねることで、困難な事態を乗り越える心、社会に適応していく力が育つ。

### ではどうしたらいいのか。

人あまり迷惑をかけず、自律して社会でうまく生きていく人間に育ててもらうには…。それにはやはり、**しつけ**というものがが必要です。この「しつけ」にはプロセスがあるとのこと。

### 「自律」の力を獲得するプロセス(しつけ)

大人：①守るべき**枠組(約束・ルール)**を示す。(発達年齢に即した妥当なもの) → **現実原則**

例 スーパーに行っても一個しか買わない(枠組み)。

授業中は勝手に立ち歩かない。

子供：②「枠組み」にぶつかって**不快感情**を表出する。 → **不快感情**

例 買って、買ってと泣き叫ぶ、だだをこねる。

つい立ち上がる。

大人：③**不快感情**は承認(言語化)するが、**枠組(約束・ルール)**は変えない。 → **安心・安全**

言語化… 欲しかったんだね 痛かったんだね 悲しかったんだね 悔しかったんだね

子供：④きちんと**葛藤**する。 → **待つ**

子供：⑤自己の**欲求の制御** → **自律(感情制御のネットワーク促進)** → **待つ**

**待つ**  
泣いたり、ぐずったりしていることをそのままにしておける余裕

### 結論

感情を出すことを止めず、認め(言語化)待つ。しかし、「ならぬものはならぬ」という態度を示すこと。

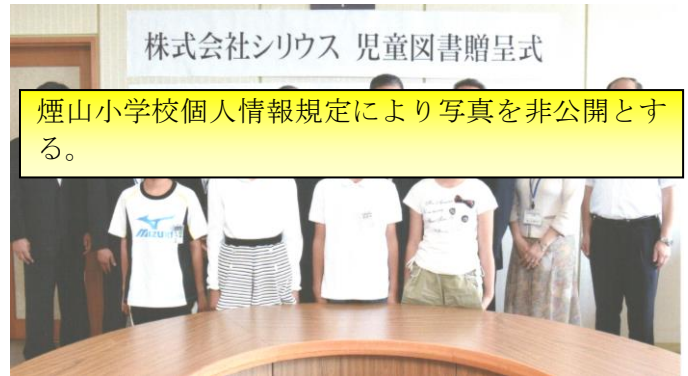
これには、親・教師の対応の訓練(覚悟)と場に応じた工夫が必要です。もっと詳しく知りたい方は、大河原美以 著 「ちゃんと泣ける子に育てよう」 親には子供の感情を育てる義務がある。河出書房新書をご覧ください。

※これらの内容は大河原先生の許諾を得て掲載しています。

# 実語教～親子で読もう～

新聞、テレビで報道されましたように、一昨年度、昨年度に引き続き、株式会社シリウス様（代表 佐藤幸夫様）より町内全小学校児童一人一人へ1冊の本が寄贈されました。贈呈式には、6年生の図書委員長松島蓮さんが出席し、次のようなお礼の言葉を述べました。

“山高きが故に貴たれども 樹有るを以て貴しとす”  
世の中の役に立つような人になるように、この本をみんなに紹介したいと思います。



煙山小学校個人情報規定により写真を非公開とする。

昨年度は「中村久子先生の一生」でした。今年度は＜親子で読もう＞「実語教 齋藤孝著 致知出版社」です。この本は日本人として千年もうけつがれてきた心のDNAともいうべき本です。この本のあとがきに下のようなことが記されてあります。東日本大震災のときに全世界に感動を与えた日本人の姿。過酷な状況の中で、互いに思いやり励まし合い礼節をもった行動を取ることができる日本人の素晴らしさ。それは、親から子どもへ受け継がれてきた本物の道徳心があったからです。

前略 江戸時代の人々はよく学びました。幼いころから寺子屋で「実語教」を学んでいたため、学問の大切さもよく知っていました。目上を敬い、目下の面倒を見て、助け合って生きていくことも知っていました。そういう人たちが明治維新をおこし、世界史の奇跡と呼ばれる近代化に成功したのです。…中略… お金よりもっと大事なものがあることを教え、学問の大切さや人間の生き方の基本を心に刻みつけてくれるのが「実語教」なのです。後略

原文は難しい言葉ですが、解説はとても分かりやすく、背筋がぴんとするような内容です。意味が分かって、もう一度原文を音読すると、言葉の響きから心に刻まれると思います。この中の何か一つでも暗記しているとこれからの生き方のよりどころとなると思います。こういう生き方のよりどころとなる言葉を「杖(つえ)言葉」といいます。

低・中学年には難しい内容かも知れません。親・教師が手にとって読み、子ども達に読み聞かせながら一緒に読み味わってもらいたい内容だと思います。

なお、一言感想を寄せていただける方がございましたら、表面の感想用紙にて担任までお届け下さい。

## 国体応援旗完成!!

希望郷いわて国体・いわて大会に向けて、昨年に引き続き、いよいよ本番の今年も歓迎の旗を作成しました。各学級から選抜された人たちならではの力作です。

